

令和6年度 特別の教育課程の実施状況等について

学 校 名	管理機関名	設置者の別
静岡県立清水南高等学校中等部	静岡県教育委員会	公立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

特別の教育課程の編成の方針等の公表 URL
https://www.edu.pref.shizuoka.jp/shimizuminami-h/about/junior-high-school.html
https://www.edu.pref.shizuoka.jp/shimizuminami-h/about/curriculum-daily-routine.html

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
https://www.edu.pref.shizuoka.jp/_files/00182225/62.pdf	https://www.edu.pref.shizuoka.jp/_files/00182218/61.pdf

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
 一部、計画通り実施できていない
 ほとんど計画通り実施できていない

(2) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
 実施していない

<特記事項>

特別の教育課程の実施状況や取組の様子等について、学校ウェブページ等を通じて、保護者及び地域住民に広く情報提供を行っている。また、清水南高等学校中等部独自の教科「表現」で学んだことを生かし、文化祭では合唱を、表現発表会ではダンスやショークワイア、ミュージカル等の演目を披露している。文化祭は生徒と保護者、後援会や同窓会を対象に、表現発表会は保護者、後援会や同窓会を対象に、それぞれ公開した。公開に当たっては、例年、チラシ、ポスター、ウェブページを通じて広く広報し、開催している。

なお、受検生を対象とした学校説明会やオープンスクールにおいても、「表現」の授業の様子の説明や、中等部生による学校紹介等を企画・実施している。

4. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

清水南高等学校中等部においては、「普通科と芸術科を併置した県立中高一貫校として、表現活動や探究活動及び芸術教育を通じて、高い知性と豊かな感性・表現力を備えたグローバル人材の育成を目指す。」ことをスクールミッションとしている。国際化社会に貢献するために、積極的に他者と関われるような人材を育成していくため、「表現」の授業を設定している。

令和6年度学校評価アンケートでは、約80%の生徒が「協調性、表現力、集中力が身に付いた」と答えており、特別の教育課程を編成したことが、生徒の成長に寄与していることが分かる。

今後も継続をしていきたい取組ではあるが、講師や会場の確保には難しさを感じている。また決められた時数の中で生徒が納得できる作品に仕上げられるようにしていくため、十分に計画を練る必要がある。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

「表現」の授業では、自分の思い、考え、感情等を伸びやかに表現する力と他者と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指している。表現の活動により、楽しさや喜びを味わうこととともに、自己の課題を発見し、合理的に解決に向けて思考し判断すること、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにすることも目標としている。

「表現」の授業での取組により、のびのびと自分の意見を発信できる生徒が多い。「表現」以外の授業においても、人前で意見を述べたり、作品を発表したりすることに積極的に取り組み、交流を楽しみながら、自らの思考の幅を広げようとする姿勢が見られる。

ジェネリックスキルを図るアセスメントテストにおいては、親和力・協働力に秀でていたという結果が得られた。多様な価値観を受け入れ、人と積極的に人間関係を築く力、集団の中で互いに協力し合い、ともに物事を進めていく力が育っていると言える。

一方で、課題発見力や計画立案力は弱い。協働して一つの作品を創り上げていく中で、自己や集団の課題を意識し、その解決に向けて自ら計画を立てて実践に移していく取組が必要だと感じている。

5. 課題の改善のための取組の方向性

今後もこの取組を継続していくために、授業計画や発表会の開催方法について検討していくことが必要であると考えている。また、今後は、中等部の「表現」と高校の「探究と表現」とが、より系統性をもった活動となるよう、取り組んでいく必要がある。